ユキちゃんのムチムチ大冒険　Episode03

シルヴィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ユキちゃんのムチムチ大冒険　Ｅｐｉｓｏｄｅ０３

【Ｎコード】
Ｎ１２０９Ｏ

【作者名】
シルヴィ

【あらすじ】
僕に下された命令。それは「対ＴＦＥＩ端末用クラッシュプログラム」を用いて長門さんをクラッシュさせること。
こんな命令、僕に遂行できるわけがない。僕が、僕が長門さんを壊すなんてできない。無理だ。絶対に無理だ。
でも、命令は絶対。ならば僕はこうしてやる！

（前書き）

物語中に一部「地獄少女」ネタと「うみねこのなく頃に」のネタがあります。わからなくても読めると思いますが、「うみねこのなく頃に」は知っているとより面白くなると思います。

「森さん、これを僕にやれとおっしゃるのですか？」
「命令だ。」
「ムリ、です。僕にはできません。」
無言で森さんは拳銃で僕の額を、ミリ単位の正確さで狙ってきました。
「私はお前を撃ちたくない。」
「そういうことですか。わかりました。」
「北高潜入エージェント全員に、あなたが妙なことをすれば。即、拘束処置を行うこと、及び麻酔銃、あるいはそれに類するものを携行させ、各自の判断で使用できるように通達済だ。」
「わかりました。それ以上の説明は不要です。」
「古泉一樹、ミッションの成功を祈るわ。」
僕は無言でその「ブツ」を受け取りました。「ブツ」、それは「対ＴＦＥＩ端末用クラッシュプログラム」という「機関」が独自で開発したナノマシンプログラムをカプセルに仕込んだものです。ＴＦＥＩ端末の体内に取り込まれることにより、文字通り対象をクラッシュさせるシロモノ。僕がこれを持っているという理由はあるミッションを遂行するため。ミッションの内容は非常にシンプルなものでした。

「長門有希を始末しろ。期限は３日後」

このカプセルをどうやって長門さんに投与すればいいのでしょうか。料理に混ぜるか、いっそ口移し…って、これはいけません。そんな破廉恥なこと、破廉恥なこと、ええ、したいです！僕は健全な男子高校生です。したいに決まっています！
でも、何で僕が長門さんを始末しなければいけないのですか？「機

関」だって彼女に助けられたことはいくらでもあるでしょう！こんな同義に反すること、僕は許せません！と怒ったところで、どうしようもありません。「機関」は目的遂行のためならどんな汚い手を使う存在です。僕の「バイト」なんて、まだ綺麗な仕事ですよ。北高へ転校する前に、僕がやっていたことすべてを白状すれば、少年院に１００回ぐらいお世話になるでしょうね。

「僕にはできない。長門さんをクラッシュさせるなんて、できるはずがないのに。」

あまりにも残酷なミッション。僕は、僕は長門さんが好きなのに。ただ、純粋に好きなのに、どうして「機関」はこんな残酷な命令を下すのだろう。

いや、違う。僕が抱いている、「長門さんやＳＯＳ団に対する気持ち」をわかっているからこそ僕の「機関」への忠誠心、帰属意識を確認するためにこんな命令を出したに違いない。

でも、僕には長門さんが「機関」、すなわち人間が作ったプログラムなんかでクラッシュするとは思えない。彼女は特別。そう、長門さんは特別な、特別な女性

「特別なんですよ！僕が好きな女性なんですから！」

「古泉、何が特別だ？あ？お前は授業中に居眠りしたあげく、好きな女子の夢でも見たか？」

僕は自分の声で目が覚めました。視線がえっと、クラスの人数が３５人で、今日は２人欠席だから３３人で、人間の目は２つあるから、かける２で６６、先生の分を合わせて６８本の視線が僕に浴びせられます。うわぁ、アニマル先生、猛烈に怒っていますね。あ、何か胸倉掴まれています。これは今時じゃなくても体罰レベルになるのでしょうか？先生、そんなふうに大声をだすから、貴方は北高生に

「アニマル」なんてニックネームをつけられるのですよ。実際、体格も顔もアニマル浜〇氏にそっくりで、貴方にまったく似ていない、綺麗なお嬢様がいらっしゃるところもね。
あぁ、そういえばまだ授業中でした。昨日は小さな閉鎖空間が断続的に発生したので、経過を監視するために、ほぼ徹夜でした。監視体制が解除された後、僕はそのまま、「クラッシュプログラム」を受け取り、学校へきたわけですが、ただでさえ眠いのに、そんな命令を出されたショックで居眠りをしていたようです。しかも、今は世界史Ａの授業ですから、あはは、もう４時間目ですね。この調子では、午後からも熟睡できそうです。６組で長門さんの隣で居眠りするか、５組で涼宮さん達の合同居眠り選手権大会に参加するか、どっちにしようか悩みますね。
「先生のおかげで目が覚めました。はい。ありがとうございます。」
「いいか、気合が足りないから、居眠りするんだ、わかったか！気合だ！気合だ！気合だ！ちっとは気合をいれろやぁ、古泉ぃぃぃぃ！！」
窓ガラスが震えそうな大声。３階中に響き渡っていますね。涼宮さん達のクラスが４階で助かりました。いつもだったら野次を飛ばすクラスメイトも、アニマル先生の怒りっぷりにさすがに凍り付いています。
「おい。お前はこの状況でまだニヤついてんのか？」
「いいえ、表情筋が突っ張っているだけです。この状況でどうやって笑えとおっしゃるのですか？」
「口答えが出来る余裕があるなら、ちゃんと目を開けて授業に集中しろ！」
「はい。」
ははは、さすがに目が覚めました。その代わり偏頭痛のパワーは３割ほどアップ。昼休みに鎮痛剤を服用しましたが、痛みは解消されても、眠気は解消されません。結局、次に目が覚めたのは放課後でした。鉛と化した体を引きずって僕は部室のドアをノックします。

返事がないのでドアを開けると、長門さんがいつものとおりに本を読んでいました。冬のわずかな太陽が彼女を照らし、顔に影を作ります。冬は長門さんの季節。その姿は神々しいという表現がぴったりくるでしょう。

「長門さん。」

「何？」

彼女の宇宙を模したような大きな瞳を正視できず、視線を落とします。

「いえ。ちょっと、何でもないです。あ、たまには僕がお茶でもいれましょうか。」

「…」

ストーブのスイッチを入れた後、やかんで水を汲んできて、湯を沸かします。僕がヤフオクで落札したティファールの湯沸かし器を使えば、すぐにお湯ができます。僕は長門さんから見えないように、自分の体で影を作って、彼女の茶碗にお茶を注ぎそこに「クラッシュプログラム」を入れるだけ。すぐにカプセルは溶けて分散する。長門さんがこれを一口飲めば、僕のミッションは終わる。そして

「長門さんが、終わる。」

心臓の音が頭を砕かんばかりに響いてきます。冬だというのに大量の汗。ダメだ。僕には、できない。エージェント失格と言われてもいい。誰でもいいから僕の頭を打ち抜いてください。僕にはできない。

「脈拍も心拍数も異常な値。心配。」

「あ、あ、長門、さん。」

「落ち着いて、古泉一樹。」

「はい。だ、大丈夫です。」

長門さんは僕の後ろにいる。今、この部室には僕達だけがいる。

（これは命令だ。拒否はできない。お前は「機関」のエージェント

だろう？早く長門有希を始末しろ。）
（無理だ。好きな人をクラッシュさせるなんて僕にはできない。）
（命令を拒めばお前が死ぬことになるぞ。）
僕は何を思ったか、自分の茶碗にやかんの冷水を注ぎました。こうすればいい。ＴＦＥＩ端末、対有機生命体コンタクト用ヒューマノイド・インターフェースをクラッシュさせるプログラムなら、人間である僕にとっても有害なはずだ。茶碗にカプセルを落として１秒。カプセルが溶けたのを確認してから口に含み、長門さんのそばに近寄ります。長門さんは僕が何をしようか理解したらしく、目にはっきりと拒絶の意思が浮かんでいました。僕はそれを無視してさらに距離を詰めて行き…。
「！！」
後ずさりする長門さんを力任せに抱き寄せて、右手で長門さんの頭を抱え込み、思いっきり口移し、要するに僕は、嫌がる長門さんを強引に抱き寄せて、破廉恥きわまる強引なキスで長門さんに無理矢理「クラッシュプログラム」が拡散した冷水を飲ませました。もちろん僕の口にもプログラムは拡散しています。長門さんは、半ばフリーズしたように座り込み、僕を呆然と眺めていました。これって、いわゆる、その、レイ…あ、違う！でも最後までしてないし、でも長門さんは拒否していた。いや、待て。それならばさっさとその万能パワーで僕をふっ飛ばしてしまえばいい。だから長門さんもまんざらではないはず。いいや、そんなことはない！絶対にない！
「長門さん、ごめんなさい！！本当にごめんなさい！」
「これはエラーを起こすプログラム…。」
「長門さん、僕を、僕をこの場で情報連結解除してください！そうすればこのプログラムの成果は誰にもわからなくなります！早く！」
「古泉一樹。」
「はい。」
「ばかめ。」
「え？」

「機関に「ばかめ」と言ってやれ。」
「は？」
「あなたには「ばかめ」という言葉と「汚らわしいケダモノ」という言葉を進呈。」
あぁぁぁぁっ！長門さんが完全に怒っています。端から見れば、長門さんは「いつもとちょっと違うかな？」程度の変化ですが、僕には、はっきりとわかります。今の長門さんは怒りに燃えています。自分をクラッシュさせようとした「機関」への怒り、強引に唇を奪った僕への相当な殺意。２つの炎が絡み合って、空を突き破って燃え上がっています。
「！」
気がつけば、僕は長門さんのマンションにいました。ご丁寧にカバンもあります。
「長門さん！無事ですか？」
「クラッシュプログラムのおかげで、わたし自身の構成情報が書き換えられた。」
僕はふと、「胡蝶の夢」という漢詩を思い出しました。今、僕のいる場所は夢なのか現実なのか。わからない。いや、これは夢だ。僕は「機関」という組織の人間で、愛する人を手にかけろという命令を受け、苦悩する少年。現実ではありえない。そんなこと、あるわけがない。そうだ、僕は今夢を見ている。もう少しすれば僕は「現実」に帰る。ああ、何かリアルすぎてどっちが夢でどっちが現実なんだろう。僕にはもうわからない。
ビシビシビシィィィィィ！！！！
「痛――――――――――――――――っ！！！」
体に充分すぎるほど刻み付けられたこの痛さ、僕は今、現実（リアル）にいます。しかも、最高の現実（リアル）が僕を笑いにきたようです。このまま僕は現実から「アンインストール」されてしまうのでしょうか。しかし、

アンインストールされる前に確認すべきことがあります。何と、長門さんの指がすべてグリンガムのムチになっています。これはどういうことでしょうか。

「指の構成情報が強制的に書き換えられすべてがグリンガムのムチに変化よくもやったな古泉一樹しかもあんな破廉恥きわまる不潔かつ卑猥で高校生にあるまじき強制猥褻行為を高等学校という神聖な学び舎でしかも文芸部室内においてぬけしゃぁしゃぁと実行しやがる万年ニヤケエセ爽やかスマイル面むっつりスケベ症候群レベル５に分類される「ケダモノ」と表現すれば「ケダモノ」に同情せざるを得ないような自律進化を果たしたプレミアムケダモノに対してきちんとしつけをしないと今後さらにレベルの高い性犯罪をやらかす可能性が９９．９９９９９９パーセント涼宮ハルヒ及び朝比奈みくるあるいは９組の女子生徒や「機関」に所属する女性が憂慮すべき脅威に晒されるので安全確保のためにこの場面において長門有希は古泉一樹に対して断固たる処置が必要と判断し即実行する」

僕の口元が思わず綻んでしまいます。長門さん、普段はとても無口な貴女に、句読点もなしでこれほど豊富な語彙で罵倒されると、傷つくよりも、清々しい気持ちで胸がいっぱいになります。むしろ、もっと罵ってください。長門さんは、常日頃からたくさんの本をお読みになる方ですから、人間よりも、はるかにボキャブラリーが豊富なのでしょうね。もしかしたら、あの早口呪文。あれも誰かに対する罵詈雑言なのですか？長門さんは、そうやって他人に対する不満を表現するのでしょうか。だとすればその内容をぜひお聞きしたいものです。

そして指の構成情報が変化して、すべての指がグリンガムのムチとなった長門さんの白い手。いやぁ、グリンガムのムチが１０本ですよ。あの美しい指がすべてグリンガムのムチになっているのは残念といえば残念ですが、これはこれでなかなか壮観です。これだけグ

リンガムのムチを揃えるのに「小さなメダル」がどれほど必要なのでしょう。あるいは、スライムレースでどれほど荒稼ぎしなければいけないのでしょうか。これだけの装備があれば、すぐにラスボスを倒してエンディングを見ることができそうです。そして僕の人生は、「機関」ではなく、長門さんのムチによってエンディングを迎える、というわけです。

「いっぺん、死んでみる？」

そうささやいた長門さん。ええ、それは、それはもう、地獄少女が、閻魔あいが、今、そこにいるように見えました。しかし、「死んでみる？」と誘われても僕は非常に困ります。理由は明快です。

「グリンガムのムチを１０本同時に振り回されたら、誰でも確実に死にます！」

「古泉一樹。」

「何ですか、長門さん。」

僕はせいいっぱいの笑顔で長門さんに応えます。きっと最期の笑顔ですよ。しっかり見てくださいね。

「へそでも噛んで死んじゃえば～♪」

待ってください、長門さん！番組が変わっています！それは、閻魔あいではありません。「うみねこのなく頃に」の黄金の魔女ベアトリーチェです。ついでに言えば、本家ベアトリーチェのセリフではなく、エヴァ・ベアトリーチェのセリフです！

って、痛いっ！これは痛い！１０本のグリンガムのムチによる鮮やかな「五月雨なんてもんじゃない早明浦ダムも１日で貯水率０％から１００％まで回復可能な災害クラス集中豪雨攻撃」が開始されました。視界は奪われ、感覚というものは痛みしかありません。今の僕には痛みと、やや強引にまとめるなら、血が流れ出す感覚だけで

世界が構成されています。そんなスピードで、ムチを１０本も振り回されたら、長門さんの顔が見えないじゃないですか。どうせ死ぬのは分かっています。でも、それだったら最期ぐらい、長門さんの顔を見て死にたいです。せめて、せめてものお願い、誰か聞いてくれないかな。

「お前は屈服させがいがある。お前のような男にこそ、我が名を讃えさせ、つま先にキスをさせてみたいものよ。」

長門さん、大丈夫です。オッケーです。今度はちゃんと黄金の魔女ベアトリーチェのセリフになっていますね。あぁ、でも少しいじけてしまう。

「長門さん、よく聞いてください。僕はいつでも長門さんに屈服しています。これほどまでの目にあっても、僕は貴女が好きなのです。つま先へのキスぐらい、長門さんが望めば、いくらでもさせていただきます。だから、ムチを半分止めてお顔を見せてくれませんか。」

「よかろう。わらわは敬う者に対しては寛大だが、そうでない者には残酷であるぞ。」

「存じております。僕は貴女を尊敬してやみません。」

あれ？ろれつが怪しくなってきました。このレベルのムチは何度も経験しているのですが、今日に限っては、屈してしまいそうですね。僕にもついに「クラッシュプログラム」の効果がでてきたのでしょうか。急速に意識が遠のいていきました。

「目が覚めたか、古泉一樹。」

「あの、すごーく首が苦しいのですが、何のマネでしょうか？」

「全裸にしないだけありがたいと思え。」

「……。」

「わたしをクラッシュさせようとしたお仕置き。これはそのパート２。今日、自宅に戻ることは許可しない。朝までこの姿でいてもら

う。」
「つまり、僕は貴女の「家具」になるのですね。」
「察しがよいな、妾は頭のよい男は嫌いではないぞ。」
グリンガムのムチが引っ込んだ代わりに、僕には首輪がつけられ、首輪からのびた長い鎖の先を長門さんが持っています。逆転裁判2、黒執事に続いてこんどは「うみねこのなく頃に」ですね。って、長門さん、そのセレクトはワザとでしょう！主人公の男性がヒロインにボロボロのメッタ打ちにされる話ばっかりじゃないですか！
「しゃべるな、家具！」
痛っ！ふう、鎖で打たれるのも痛いものですね。でも、仕方ないです。僕は「機関」の命令とはいえ、破廉恥な行為を働いて、しかも長門さんを殺そうとしたのです。これぐらいのお仕置きで長門さんの気がすむならお安い御用でしょう。必殺技「情報連結解除」をくらわないだけありがたい話です。しかし、あの長門さんの楽しそうな顔。あのお顔を見ることができるだけでも、僕は幸せです。
主人公の右代宮戦人に勝利し、彼を全裸にして首輪と鎖をつけて、彼女の仲間の前で見せびらかすシーン。黄金の魔女ベアトリーチェは気高く、美しく人間を嘲り笑う。魔女のまわりは黄金の蝶が舞い飛んで行く様子が目に浮かびますよ。
ちょ～待てよ。お前なんでそんなに「うみねこ」詳しいの？と思うみなさん。僕が、ヒロインがドS美人のアニメを見逃すと思いますか？ええ、毎週録画して、欠かさず見ていましたよ。ブルーレイは必ず初回限定版を購入しています。毎週、僕好みの強い美女がたくさん登場するので最高でしたね。黄金の魔女ベアトリーチェや主人公の妹、右代宮縁寿がいいと思います。ちなみに、僕的うみねこ一押し美女は主人公の義理の母、右代宮霧江さん。薄い色のショートヘアの美人です。強くて勇敢で、頭が切れる、僕好み直球ど真ん中、ドストライク！って感じです。出番は少ないですが、霧江さんが出てくるとわくわくしますね。ちょっと、誰ですか？霧江さんって、ぶっちゃけ、胸の大きさと背の高さ以外は長門さんじゃねーの？っ

ておっしゃる方は！
あと、霧江さん役の田中敦子さんのキリッとしたハスキーな声も好きです。だから田中さんつながりで、「攻殻機動隊シリーズ」の草薙素子少佐も大好きですよ。実際、声だけでなく、少佐の生き様はマジかっこいいですからね。特に、彼女が高層ビルから飛び降りて行くシーンはいつ見ても鳥肌ものです。僕も一度でいいから、あんなふうに高層ビルから飛び降りてみたいですね。
少佐に「コイズミィィーーーー！そいつをよこせぇぇぇぇぇー！！！」って言われたい！もう、そうなったら僕の「神人狩り」に対するテンション倍々ゲームでハイになりますよ！あぁ。一回でいいから少佐の部下になりたいっ！
「貴様、いい腕をしているな。今か　ら私の部下になれ！」
「喜んで！！」
なーんてね。
ちなみに、「攻殻機動隊シリーズ」はすべてＤＶＤとブルーレイバージョン、持っています。着メロだって「ｒｉｓｅ」と「Ｉｎｎｅｒ　Ｕｎｉｖｅｒｓｅ」ですからね。
「ところで長門さん。」
「何？」
「ご飯は貴女が食べさせてくれるのですか？この格好では、誰かが食べさせてくれないと、僕は食事ができません。」
「家具に食事などいらぬわ。」
く、苦しい！そんなに引っ張らないでください！首輪がめり込んで苦しいですって！この際、はずせとは言いませんから、もう少し手加減をお願いします！
「せめて水だけでも飲ませてください。」
「では、家具にも食べさせてやろう。黄金の魔女ベアトリーチェの寛大な心にひれ伏すがよい。」
「はい。ベアトリーチェ様の寛大な計らい、心から感謝いたします。」

今、僕は鎖と首輪で繋がれていますが、両手両足は自由です。普通に食事をさせてくれるでしょう。あ、でも、もしかしたら？

「いっちゃん、はい、あーん」
「あーん、ありがとう、ゆきりん♪」

なんて展開を期待した僕がバカでした。長門さんは喉の奥ギリギリまでスプーンを突っ込んでカレーを食べさせてくれます。それももものすごい速さで。まだ飲み込んでいないのに、つぎつぎとスプーンを奥まで力強くつっこんできます。喉が詰まって呼吸ができません。それ、マジで死ねます。ムチより危険です！お正月に餅を詰まらせて亡くなる人が必ずいるでしょう？自らの吐瀉物で窒息して死亡するという事故もあるのです。はっきり言いましょう。三途の川を渡るのに、自力で渡るか、有料道路を使用し、快適にクルマで渡るぐらいの差があります。長門さんの行為は僕をフェラーリに乗せて、アクセル全開で明石海峡大橋を渡らせるようなものです！せめて、２５０ＣＣのオフロードバイク（高速走行に弱く、あまりスピードを出すと車体が揺れる）にしてください！
マジで死ぬ５秒前のような恐怖の食事を終えて、長門さんはお風呂タイム。鎖の先は壁に溶け込むように情報操作がなされています。僕はフローリングに寝転がりました。ひんやりとした床の感触が気持ちよく、首輪と鎖で縛られていることを忘れてしまいます。この状態で幸せな気分になれるなんて、僕はどこまでドＭなのでしょう。

Ｑこれだけ痛めつけられて、屈辱的な格好にされて笑っていられるバカがどこにいるのでしょうか？
Ａここにいます。

でも、長門さんはきちんと傷を治してくれました。制服も元通り。一度は長門さんにクラッシュプログラムを注入できたのですから、

報告書には「対ＴＦＥＩ端末クラッシュプログラムについて「長門有希」に投与成功。その後、端末構成に大きな変化が見られた。但し、端末本体へのクラッシュは確認できず。「長門有希」の稼動状況に大きな変化は見られない。」と書いておきましょう。ウソはついていません。この事実は、僕が身をもって証明しました。長門さんが無事であり、なおかつ「機関」に対しても正直な結果を出せた。とりあえず僕も生きている。これって、完璧にミッションをクリアしているじゃないですか！しかも僕も「機関」も望むとおりの結果ですよ！こんなにいい結果が出るのであれば、長門さんの過激な「お仕置き」という「ごっこ遊び」のお相手ぐらい、どうってことないです。何事もポジティブに、前向きに考えましょう。

え、その後の僕ですか？もう、皆様の想像どおりです。ずっと長門さんのオモチャにされました。でも、首輪と鎖をつけられた僕の隣で、すでに眠っている長門さんは、とても可愛いお顔です。

長門さん。今日は本当にごめんなさい。でも、貴女が壊れなくてよかった。本当に良かった。僕の手で貴女が壊れたなんてことになったら、僕は何をするかわからない。グリンガムのムチは痛いけれど、それは長門さんが「自分の意思」で動いている証拠ですよね。だって、あれは僕だけへのプレミアムスペシャルプレゼントでしょう？

「おやすみなさい。」

長門さんの頭を撫でると、彼女はスリープモードなのに、鎖を少し引っ張りました。僕の声が聞こえたのかな？だったら嬉しいな。かわいい。どうしようもなくかわいい僕の長門さん。首輪をつけられた僕、首輪から伸びる鎖の先は手錠となって長門さんの手首にはめられています。その鎖は先ほどよりずいぶん短くなっています。僕と長門さんの距離は、せいぜい人２人分ぐらいでしょうか。おかげで密着することなく理性を保ったまま眠れそうです。もっともこの状況で「間違い」は起こりえません。断言できます。そもそも、ミッション遂行のためとはいえ、僕が長門さんに「強制猥褻行為」をやってしまったのが、すべての原因なのですから。ちなみに長門さ

んが、わざわざ鎖の先を手錠にしたのは「わたしが寝ている間に逃亡されるのを防ぐため」だそうです。壁に溶け込んだままにしておけばよかったのにわざわざ手錠ですか。そうやって僕を拘束してムチやら鎖やらを振り回す長門さんの執念には、いつもあきれてしまうのです、が、僕にとってはその執念も愛しくてたまらないのです。やっぱり僕は、常に長門さんに縛られていたい訳ですよ。たとえ変態ドMと言われようと、長門さんなら許せてしまうのです。

「貴女がつけた首輪もはずせませんが、ふふふ、僕がつけた手錠も簡単にはずれませんよ。」

なんて言えたらいいのにな。ってあれ？僕ってヤンデレキャラでしたっけ？だけど、それ以前に「長門さんに手錠をはめる」という行為を想像するだけで体が震えてきます。ありえません。でも、ちょっとばかり非常識な存在の僕達には、これぐらい過激でちょうど良いのでしょう。早朝、僕はいったん自宅に戻ってシャワーを浴び、ちゃんと身支度を整えました。その間、当然長門さんに繋がれっぱなしです。

「長門さん！いくらなんでも学校に首輪をつけていく訳にはいきません！」

「しゃべるな、家具。」

「今日は体育があるからダメです！」

「わたしがちゃんと引っ張るから大丈夫」

「そういう問題じゃありません！」

「くぁｗせｄｒｆ（ｒｙ」

例の高速呪文登場です。

「物質に対して透過効果を与えた。わたしとあなただけが視覚可能。但し、質量操作権限はわたしだけ。」

「つまり、首輪と鎖は、僕と長門さんだけに見えて、しかも操作できるのは長門さんだけということですね。って、全く意味ないでし

ょう！結局僕は繋がれっぱなしじゃないですか！」
「遅刻する。早く歩け。」
勢いよく長門さんは僕を蹴飛ばして歩き出しました。ははは、端から見たら高校生カップルが仲良く登校しているように見えるのでしょうね。長門さんは分子構造を修正して手錠を持ち手にかえて右手に握り締めています。
「長門さん。」
「何？」
「僕はどこにも行きません。貴女を認め、貴女に屈服します。貴女を敬っています。いつも、いつもね。僕はそういう人間です。貴女が好きで、好きでたまらない。こんなことをしなくても僕は貴女のそばにいますから。信じてください。」
「…」
突然、全身を拘束していたものがはずれました。やっと長門さんもわかってくれたようです。
「そのかわり、こうする。」
ぎゃぁぁ！長門さん、ここは北高行き急勾配ハイキングコースです！こんなところで僕を抱きしめないで、訂正！人外パワー全開で、自らの両腕で僕を拘束しないでください！骨が、骨が折れます！肋骨がヤバイです！！長門さん、即、離れてください！それが嫌なら、せめてパワーを下げてください！

「お前ら、朝からこんなところで何やってるんだ？」
ニヤニヤしているヒマがあったら、助けてください！あなたの「娘」が暴力行為に走っていますよ！こら！谷口君！国木田君！マヌケ面でぼんやり見ていないで助けてください！
「ゆ、有希、古泉君、朝からおはよう。通学路では離れて手を繋いだほうがいいわよ。」
涼宮さん、日本語が怪しくなっています。「朝からおはよう」って、

どういう意味ですか？それに離れたら手は繋げません。

「あ、あ、お2人ともな、ななな何をややややってるんんんんですすすすすかかかかかかか？」

「一樹君、ずいぶんと有希っこと熱い仲になったにょろ～。うんうん。お姉さんは健気な有希っこを応援するにょろよ。一樹君もめがっさファイト！」

朝比奈さん、「お2人とも何をやっているのですか？」と言いたいのですね。わかりました。鶴屋さん、健気な有希っこを応援するのは結構ですが、有希っこが過激な遊びに走りだした原因は、貴女が「黒執事」のＤＶＤを長門さんに貸したのが最初でしたね。まさか「うみねこのなく頃に」のブルーレイを長門さんに貸していませんよね？「地獄少女」シリーズも貸していませんよね？僕は長門さんには一切貸していませんよ。

「古泉一樹、わたしはいつもあなたのそばにいる。あなたを守る。」

あ、僕をノックアウトさせる決まり手発動。でもこの「決まり手」を出すときの長門さんは常に本気です。強い意志を、引き込まれる黒い瞳から感じます。では僕も決まり手を発動させましょう。

「ありがとうございます。僕も長門さんのおそばにいますよ。必ず貴女を守ります。大好きです。」

「うれしい（はぁと）、いっちゃん、だいすき（ちゅっ）」

坂を登る北高生の研ぎ澄まされた針のような視線で刺されても、すれ違いざまに同級生に「古泉、放課後体育館の裏で、しっかり話し合おうぜ。」と言われても、僕はどうでもいいです。ええ、この状況でも僕はいたって、平気ですよ、長門さん。ほっぺにキスぐらい、お安い御用ですから、それ以上パワーアップしないで下さい！！マジでヤバイです。このままだと、絶対に折れます！！！

「なな長門さん、痛い！苦しい！うぅ…げ・・ん・・かい・です。」

ボキッ。

あ、肋骨が1本折れました。でも貴女のためなら肋骨ぐらい、いくらでも捧げます。僕のものでよかったら、どうぞ受け取ってください。

（後書き）

読んでいただいてありがとうございます。

古泉君はどうやら、強い女性にめっぽう弱いようです（笑）おまけに結構なアニオタであることも判明しました。彼のお気に入りは「攻殻機動隊」シリーズのようですが、おそらく内容よりも草薙少佐にメロメロなんでしょう…。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1209o/

ユキちゃんのムチムチ大冒険　Episode03

2010年10月9日23時48分発行